



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/25 (月)	トン	▲ 6,900	▲ 6,900	国庫短期証券発行償還 (3M)	CP等買入 ▲300 社債等買入 ▲400 国債補充供給 700		日：景気先行CI指数 (6月) ：景気一致指数 (6月)
8/26 (火)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000				日：基調的なインフレ率を捕捉するための指標
8/27 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	流動性供給			
8/28 (木)	+ 1,000	▲ 4,000	▲ 3,000				日：中川順子審議委員が山口県金融経済懇談会で講演 米：ウォラーFRB理事、講演 ：GDP (2Q、改定値) 欧：ECB議事要旨 (7月開催分)
8/29 (金)	+ 1,800	▲ 2,700	▲ 900				日：東京CPI (8月) ：失業率・有効求人倍率 (7月) ：鉱工業生産 (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,500億円減少の522兆8,200億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、8月22日は523兆5,000億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.460%~0.610%のレンジ、1M~3M物0.525%~0.625%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、8月26日に基調的なインフレ率を捕捉するための指標の公表、28日に中川順子審議委員の山口県金融経済懇談会での講演などがあり、海外では28日に米ウォラーFRB理事の講演、欧ECB議事要旨 (7月開催分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.525 ~ 0.60
2M	0.54 ~ 0.65
3M	0.58 ~ 0.70
6M	0.65 ~ 0.85

<レボ>

足許GCは週初から週央まで+0.49%近辺で取引された。短国の発行があった22日の取引では0.50%の出合いが見られた。

SC取引は2年470~475回債、5年155~179回債、10年355~371、378~379回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,000億円で、週間償還額の1兆1,000億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆7,494億円から、8月21日時点で26兆837億円に増加した。発行市場は、長期休暇を終えた企業の調達再開により発行超となり、ガス業、鉱業、食料品で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では0.50%台前半での出合い、3か月物では0.60%台前半を中心に出合いが見られた。

来週の償還額は3兆4,000億円となっている。発行市場は、月末に大型案件の償還が複数予定されており、相応のロールが見込まれることから、活況なマーケットが予想される。発行レートは、利上げ時期を探りながら、引き続きレート水準を見極める展開が見込まれるだろう。

<TDB>

19日の1Y (1326回債) の入札は、最高落札利回り0.7049% (前回債0.6306%)、平均落札利回り0.6937% (前回債0.6164%) となった。

22日の3M (1327回債) の入札は、最高落札利回り0.4607% (前回債0.4457%)、平均落札利回り0.4508% (前回債0.4340%) となった。

来週の入札は29日に3Mが予定されている。